児童養護施設における独立子どもアドボカシー導入のニーズと懸念（１）

－児童養護施設職員へのインタビュー調査から－

○　長崎県立大学　　久佐賀　眞理（8925）

栄留　里美（鹿児島国際大学・7686）鳥海　直美・4400）

農野　寛治（大阪大谷大学・2319）堀　正嗣（熊本学園大学・1846）

キーワード：アドボカシー、児童養護施設、職員の意識

１．研 究 目 的

本研究の目的は、独立子どもアドボカシーサービス（Independent Children's Advocacy Service、以下 ICAS とする）について、児童養護施設職員が考えるサービス導入のニーズと懸念を明らかにし、日本版提供モデルを構築するための基礎資料を得ることである。

ICAS は、施設を運営する法人等と利害関係を持たない独立した外部機関が、子どもの権利を擁護し意見表明を支援するために、アドボケイトと呼ばれる専門職を派遣するもので、英国では 2002 年の児童法改正により基礎自治体にその提供が義務付けられている。活動方法は、子どもが公的会議に参加する際のアドボカシーと、施設への定期訪問（訪問アドボカシー）に大別される。

２．研究の視点及び方法

１）日時：2014 年 9 月 10 日～2014 年 9 月 29 日

２）対象：予備調査で協力の承諾が得られた A 自治体の児童養護施設 19 か所、23 人

３）方法及び内容：施設を訪問し、個別または 2～3 名の職員を対象に半構造化インタビューを実施した。ICAS についてその活動方法、原理（子ども中心・守秘、エンパワーメント）、活動体制（独立性）等の概要を説明後、インタビューガイドに沿ってサービス導入のニーズと懸念、アドボケイトの資質について質問した。方法は、それぞれ 5 分類 13 項目の回答例を見ながら、自由に語って貰った。ニーズについて準備した回答分類は、①子どもの思いを聞く機会の創出、②意思決定過程に参加する機会の創出、③児童福祉施設における支援の質の向上、④子どもの意見表明権の理解の促進、⑤その他で、懸念については、①子どもとアドボケイトの関係に関わる困難、②子どもの表現方法に関わる困難、③アドボケイトの役割の限界に伴う困難、④職員とアドボケイトの関係に関わる困難、⑤その他である。インタビューは研究者と調査協力員が 2 人 1 組で実施した。調査時間は 1 施設あたり 60～90 分であった。分析方法は、探索的な調査研究に適した KJ 法を参考にした.

３．倫 理 的 配 慮

研究の目的・秘密保持等について口頭と文書で説明し同意書を交わし、インタビューの録音も許可を得て実施した。調査協力員からも守秘義務に関する誓約書を取り付けた。調査は熊本学園大学研究活動適正化委員会の承認を得ている。

４．研 究 結 果

1)協力者の基本属性

協力施設は定員 21 名～50 名が最も多く、100 人を超える大規模施設も含まれていた。協力者は施設長及び苦情受付担当者が主で、男性が 8 割を占め、資格は社会福祉主事が最も多かった。社会福祉分野での経験年数は 21 年～30 年が半数を占めていた。

2)独立訪問子どもアドボカシーサービスに対するニーズと懸念

サブカテゴリーを〈　〉、カテゴリーを【　】で示す。

(1)ニーズ

ニーズは、11 のサブカテゴリーからなる【子どもにとってのニーズ】と、3 サブカテゴリーからなる【職員にとっての二ーズ】、5 サブカテゴリーからなる【支援の質の向上】に整理できた。

【子どもにとってのニーズ】では、＜言っても良い機会＞等、子どもの声を聴く機会の創出・増加が、＜不満を表出＞等子どもの話す力の育成につながり、それらが＜子どもの要望の実現＞や＜子どもの安定＞をもたらすことが示唆された。また、子どもの話す力の育成は＜いじめの防止＞や＜職員の不適切なかかわりの防止＞をもたらし、アドボケイトの訪問は、＜多くのおとなの関わり＞となり、ひいては＜専門的養育の可能性＞を高め、＜施設側の変革の機会＞となり、【支援の質を向上させる】ことが示唆された。また、＜多くのおとなの関わり＞は小規模化する施設における＜職員の孤立化・閉塞感を打開＞する可能性を持っており、子どもの話す力の育成は＜職員が子どものニーズを把握＞しやすく＜職員の学び＞となり、【職員にとってのニーズ】を満たすことにも繋がっていた。

(2)懸念

懸念は、4 サブカテゴリーからなる【アドボケイトとの関係構築の懸念】、3 サブカテゴリーからなる【「子ども中心・守秘」の原則に対する不安】、2 サブカテゴリーからなる【処遇方針や施設の運営方針と子どもの要求の対立】、【子どもを囲む関係者や行政との関係混乱】、【子ども・職員の自己肯定感の低下】、【サービス提供システムの安定性・継続性に対する懸念】に整理できた。カテゴリー間の関連を見ると、サービスの構造、プロセス、結果に分類できた。

3)アドボケイトに求められる資質

資質については、「社会的養護と施設に対する知識」「コミュニケーション技術と状況認知能力」「価値及び信念」「パーソナリティ」に関するものがあげられた。

５．考 察

今回の調査では、提供モデルの構築と施設への導入の課題として、ＩＣＡＳが子どものみならず職員や支援の質向上に寄与することを職員は望んでおり、継続性・安定性あるサービスを求めていることが明らかになった。

付記：本研究は JSPS 科研費研究課題番号 25590151 の成果の一部である。